

## コラム②：カンショにおけるヒルガオハモグリガの被害について

最近、宮古地域ではカンショの葉を加害するヒルガオハモグリガの相談が多く寄せられています。本年の6月に本種に激しく食害された圃場が見られましたので、被害防止に努めましょう。

### 1 被害と生態

- ヒルガオハモグリガ (*Bedellia somnulentella*)は、世界中に分布し、サツマイモを含むヒルガオ科サツマイモ属に寄生する。
- 国内外で時折大発生して激しい被害をもたらすことが報告されている。多発すると、葉が褐変枯死するため、圃場全体が赤く焼けたように見える(図1)。
- 若齢幼虫は線状にもぐり、食入する。中齢幼虫以降は葉脈に囲まれた部分の表皮を残して面状に食害するため、被害葉は透き通って見える(図2)。
- 幼虫の糞は葉の外へ排出するので、排出口の周りに黒い糞塊ができる。老熟幼虫(図3)は外に出て、茎葉に糸をはり頭部を下に糸で体を支えて蛹化する。
- 成虫(図4)は、平均100卵程度を産卵し、葉裏に1～2卵ずつ産み付ける。
- 本県では、周年発生し、冬期でも被害が認められる。発生回数は、年間約10世代。



図1 赤く焼けたように見える被害葉

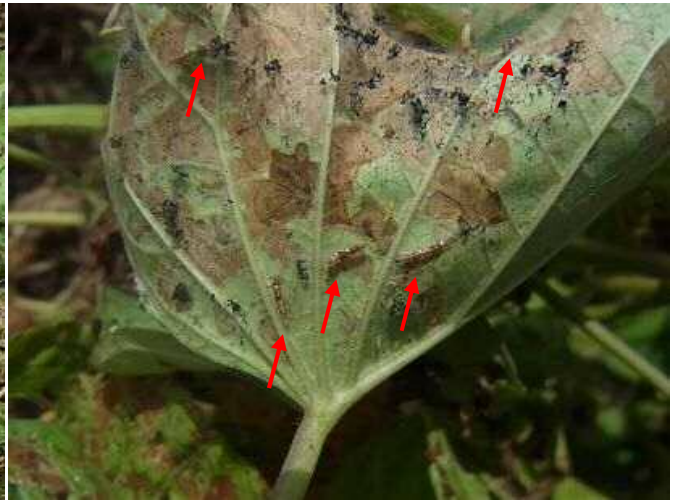


図2 表皮を残して食害する幼虫



図3 老齢幼虫



図4 成虫

### 2 防除対策

- 多発すると防除が困難になるので、初期防除につとめる。
- 被害が急速に進むので、被害葉が出始めたら速やかに防除する。
- 多発生時には、1週間おきに2～3回薬剤を散布する。
- 苗床で発生し、被害が拡大する可能性があるため、健全な苗を定植する。